

白藍塾オリジナル

2021入試小論文分析&解答のヒント

2021年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・総合政策学部

複数の資料を分析・活用し、問題発見・解決を求めているという点では、例年通りの出題だ。ただし、今年度は、参照すべき資料が比較的少なく、統計データのように読み取りが難しい資料もなく、設問のねらいもわかりやすいので、その点では取り組みやすいかもしれない。

3つの設問のうち、最初の2つは資料分析が求められている。問1は、「課題を構成する要素を見出し、整理する」とあるが、基本的には、「その政策が実施されることで、どんな立場の人がどんな利益を得る（不利益を被る）か」、つまり、立場の違いによる利害の対立に注目するとよい。そうすれば、アクターとその関係、および設問にある「書かれていないこと」も見えやすくなるだろう。

ただし、ここで時間をかけすぎると、後が苦しくなる。問2・3との連動を考え、選ばない事例についてはそこまで手間をかける必要はないだろう。

問2は、3つの事例の中から1つを選んで、「課題の構造を描き出す」問題。ポイントとなるのは、選んだ事例をどのようにフレーミングするかということだ。例えば、ケースAの「パートナーシップ政策」の場合、同性カップルの権利保障の問題として捉えるか、もっと広く、多様な性（家族）のあり方を認める社会の実現の一環として捉えるかによって、課題への取り組み方も変わってくるはずだ。ケースBにしても、日本経済全体の問題として捉えるか、日本の農業の安定→食料自給の問題として捉えるかで、見方が違ってくる。

そのようにして、フレーミングが決まれば、あとはツール2の図の例に従って改善までの流れを考え、整理すればよい。その際、問3の答えと矛盾しないように注意してほしい。逆に言えば、その流れに従って問3が書けるように考えて図を作ると、矛盾もなくなるし、問3も書きやすくなる。

問3は、問2で取り上げた課題について、「システム思考の観点に立った改善の提案」を論じることが求められている。

「システム思考」というとわかりにくいだが、要は、課題を効果的に解決するには、どのようなアクターがどのように連携し（または、どのようなアクターをどのように動かし）、関係していくべきかを考えるということだ。例えば、ケースAの場合、人権の問題として捉えるのであれば、弁護士などの司法関係者、人権団体などとの連携が重要になる。「多様な性（家族）を認める社会の実現」を課題とする

ならば、単に同性カップルだけではなく、もっと広く LGBT 当事者や、古い家族観に苦しんでいる人たちとも連携して、運動を拡大していく必要があるだろう。

タイプとしては典型的な対策問題なので、第 1 部で自分の考える対策(改善案)をズバリ示した上で、第 2 部以降でそれを検証する形にするとよい。そして、第 3 部で、問 2 の答え (図) に従って改善までの流れを説明するとよいはずだ。

©執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>